

巻 頭 言

中村（内山）ふくみ（東京都立墨東病院感染症科）

第36回日本臨床寄生虫学会大会は、石渡賢治大会長（東京慈恵会医科大学熱帯医学講座）、保科斉生副大会長（東京慈恵会医科大学感染症内科）のもと、2025年6月14日に東京慈恵会医科大学西新橋キャンパスで開催されました。寄生虫の未来予想図というテーマに相応しく、特にシンポジウム“本邦のエキノコックス症の未来予想図”では、経験豊富なエキスパートから未来を背負う若手への継承が可視化されたのではないのでしょうか。また、やはり、大会長の「寄生虫愛」は深く、「愛」に溢れた大会だったと思います。

寄生虫の診療関連で、良い情報として2025年11月1日からの赤痢アメーバ抗体検査（ELISA法）の保険適用が決定され、5学会（日本エイズ学会、日本寄生虫学会、日本熱帯医学会、日本感染症学会、日本臨床微生物学会）合同ステートメントが公表されました。悪い情報として、2025年7月から吸虫症の治療薬であるプラジカンテルが限定出荷の状態です。「想定を上回る需要が発生」とのことですが、詳細な情報は掴むことができていません。本学会の活動で、大会開催、臨床寄生虫学雑誌の発行などの学術的活動の基盤はできていますが、さらに本学会の存在をアピールし、価値を高めるため社会的貢献の面でも活動を広げていくことが重要ではないかと考えます。

（2025年11月吉日）